

匝瑳議会だより

匝りの里

運行、「駅からハイキン
グ」の実施等、様々な観
光施策を展開し、匝りの

里はもとより、本市への
さらなる集客と観光振興
を図っていきたい。

問 匝りの里の運営が開始して5か月が経過したが、その運営状況について伺う。
答 そうさき観光物産センター匝りの里は、4月1日のオープン以降8月末までの利用者は、約5万2600人と報告を受けている。

運営をお願いしている指定管理団体「NPO法人匝瑳市観光物産協会」では、7月より毎月8のつく日を「八日市」として特価品販売や特別商品の販売を行い、また、この8のつく日が土・日・祝日に当たる場合は、外テントを充実させる販売・集客イベントを行っている。

また、匝瑳市観光協会と連携し、9月1日から11月20日までを「匝瑳市観光キャンペーン」とし、匝りの里を起点とした観光フォトラリーの実施や無料観光周遊タクシーの



△ 様々なイベントが行われる匝りの里

福祉

ひとつ目は、相談支援事業で、生活に困窮している人の相談に応じ、安定した生活に向けて仕事や住まいの確保など様々な面で支援するもので、匝瑳市社会福祉協議会へ委託し実施している。

事業に係る相談状況は、平成27年度実績で、相談件数が50件、相談概要別では、医療・介護関連に

問 当市における生活保護の現状と自立支援事業について伺う。
答 生活保護の現状について、平成28年3月時点の本市の状況は、受給世帯数は253世帯、受給者数は318人で、前年の229世帯、284人と比べると世帯数で10%、受給者数では、12%の伸びとなつていて、依然として増加傾向である。

また、平成27年度末による生活保護費の支給額は、生活保護費総額が4億663万1668円である。扶助別では、医療扶助費が2億4177万4738円、生活扶助費が1億6018万7963円、住宅扶助費4344万4805円などとなつていて、医療扶助費が全体の52%を占めている。

次に自立支援事業については、平成27年4月からおり、社会保障審議会年金部会など、国において慎重に検討されており、市民からの要望に基づく制度改善については、一市町村の問題ではないため、議会から要望している。毎年、国に対して全国組織である都市国民年金協議会から要望している。8項目の要望の中での一例をあげると、死亡一時金の増額要望は平成27

年金制度の改悪をしない⑥全額国庫負担の最低保障年金の早期実現⑦特例水準の解消を理由に削減した支給

高齢者にとって、ただ一つの収入である年金が毎年減額され悲鳴があがつておあり、年金制度の充実、改善は急務となつてている。

問 高齢者にとって、ただ一つの収入である年金が毎年減額され悲鳴があがつておあり、年金制度の充実、改善は急務となつてている。

そこで、①年金の毎月支給②年金受給資格期間の10年への短縮③年金積み立ての里はもとより、本市へのさらなる集客と観光振興を図っていきたい。

社に聞いたところ、利用状況としては、匝瑳市内体としては利用者が維持されており、現在のところ、廃止や減便の予定はないとのことであった。

市としては、市民の利

用向上に努めるとともに、

匝瑳市の魅力を発

信していきたい。

高速バス

ら、生活困窮者自立支援制度の2事業を実施している。

ひとつの目は、相談支援

事業で、生活に困窮して

いる人の相談に応じ、安

定した生活に向けて仕事

や住まいの確保など様々

な面で支援するもので、

匝瑳市社会福祉協議会へ

委託し実施している。

事業に係る相談状況は、

平成27年度実績で、相談件数が50件、相談概要別では、医療・介護関連に

による困窮が15件、仕事の

離職等の関連による困窮

が15件、その他債務、相

続などの相談が20件であ

った。また、相談全体の

うち、11件が生活保護の

受給となつていて、ふたつ目は、住宅確保

給付金事業で、離職が原

因で家賃が支払えない人

に家賃を支給する事業で

1件であった。

今後も相談内容や状況

等を精査しながら、より

効果的な事業の推進を図

つていただきたい。

農業

これは、昨年度の生産実績面積と比較すると約1・8ヘクタール拡大している状況であり、9月末には刈取り時期が遅い品種である「たちすずか」や「リーフスター」を収穫する見込みである。

次に、市の単独補助金の金額について伺う。

市では、平成28年産

の飼料用米とホールクロップ事業の作付面積と市

の単独助成金の金額につ

いて伺う。

市では、平成28年産

の飼料用米取り組み生産者

に対する、現在実績報告書等関係書類の提出通知

を発送準備段階であり、

8月末時点で市が把握し

ている飼料用米取り組み

状況は、確定数値ではな

いが約300ヘクタール

である。

なお、平成27年度の飼

料用米取り組み実績は、

約246ヘクタールだつ

たので、取り組み面積で

約54ヘクタール拡大し

ている状況である。

また、ホールクロップ

事業については、本年度

7名の生産者がホールク

ロップサイレージ用稻を

事業の交付をする。

本年度も、飼料用米取

組みに対する国の支援策

（水田活用の直接支援交

付金）や県の支援策に加

え、市への上乗せ補助によ

り少しでも農業者の経営

の安定を手助けできれば

と考えている。

ひとつ目は、相談支援事業で、生活に困窮している人の相談に応じ、安定した生活に向けて仕事や住まいの確保など様々な面で支援するもので、匝瑳市社会福祉協議会へ委託し実施している。

事業に係る相談状況は、平成27年度実績で、相談件数が50件、相談概要別では、医療・介護関連による困窮が15件、その他債務、相続などの相談が20件であつた。また、相談全体のうち、11件が生活保護の受給となつていて、ふたつ目は、住宅確保給付金事業で、離職が原因で家賃が支払えない人に家賃を支給する事業で1件であった。

今後も相談内容や状況

等を精査しながら、より

効果的な事業の推進を図

つていただきたい。

これは、昨年度の生産

実績面積と比較すると約

1・8ヘクタール拡大し

ている状況であり、9月

末には刈取り時期が遅い

品種である「たちすず

か」や「リーフスター」

を収穫する見込みである。

次に、市の単独補助金

の金額については、「水

田農業構造改革対策事

業」として予算の範囲内

において飼料用米につい

ては、1キログラム当た

り25円以内、また、ホー

ルクロップサイレージ用

稻は、10アール当たり

1万4000円以内で補

助金の交付をする。

本年度も、飼料用米取

組みに対する国の支援策

（水田活用の直接支援交

付金）や県の支援策に加

え、市への上乗せ補助によ

り少しでも農業者の経営

の安定を手助けできれば

と考えている。

事業については、本年度

7名の生産者がホールク

ロップサイレージ用稻を

事業の交付をする。

本年度も、飼料用米取

組みに対する国の支援策

（水田活用の直接支援交

付金）や県の支援策に加

え、市への上乗せ補助によ

り少しでも農業者の経営

の安定を手助けできれば

と考えている。